

鍋の蠟を取つて何か渦巻のやうなものを拵へたが、忽ち蝸牛が出来たぢやないか、陛下もそれを御覧になつて、微笑させられたさうである。(鈴川君談)

生徒が蠟型の出来かゝりを先生に見せると一日がかりで先生が作りあげてしまふ。ズルイ生徒はそれを承知して、わざと先生に預けてしまつて自分は遊んでゐる。

(香取秀真「大島先生の追憶」『大島如雲先生年譜』昭和十六年東京
鑄金会編・発行)

なお、「高村豊周先生と語る」(『鑄金家協会会報』高村豊周先生一周忌祈念号。昭和四十八年七月、鑄金家協会)の豊周と内藤春治の対談中には教師としての如雲を如実に語っている部分がある。

如雲は昭和十五年に八十三歳で死去したが、その年の十月には本校工芸科棟玄関前に新田藤太郎の銅像が建設された。

如雲の退官後、四月二十二日に至り、鑄造科に講師(鑄造実習、鑄造製作法担当)として採用されたのは丸山義男(不忘)で、彼は明治二十三年四月五日山形県米沢市生まれ。米沢中学校卒業後本校鑄造科に入学し、大正六年に卒業して香川県立工芸学校の教師となつたが、同十年辞任して西菓嶋町堀ノ内百六十二番地に鑄金美術工場を設けて経営にあつた。本校へは津田信夫の推挙により採用された。

鈴川信一の略歴と後任生徒主事佐々木卓については四二〇頁に記したとおりである。増井兼吉は帝国博物館を経て明治三十二年本校履、次いで同四十年書記となつた。同二十九年以降軍籍(近衛工

兵大隊)にあり、度々召集を受けて台湾、朝鮮、清国出兵に応じ、本校ではその軍隊訓練の経験を生かして生徒の修学旅行の引率にあつた。

合田清は明治十三年から同二十年に亙るフランス滞在中に西洋木版技法を修得し、帰国後は生巧館を起こしてその技法を教え、木口木版の名手として聞こえたが、本校では明治二十九年以降、単にフランス語の嘱託教師として遇された。本校に臨時版画教室が設置され、生徒の兼習が許可されるのは昭和十年であるが、それ以前から生徒の間には版画研究の動きが高まりつつあり、校友会に「椎の木の家」と称する版画クラブが出来、昭和三年二月十七、十八日に創作版画第一回展を開催した。合田は十八日に招かれて「西洋版画に就いて」と題して講演しており、その概要が『東京美術学校校友会月報』第二十六卷第八号に掲載されている。

③ 正木直彦の退官と赤間信義の校長事務取扱就任

昭和七年三月三十一日、正木直彦が校長を辞し、文部省専門学務局長赤間信義が校長事務取扱となつた。正木は三十一年間校長をつとめ、その間、正木の美術学校と称されるまでに本校は彼の統率の下に進展を遂げたが、彼に匹敵するような後任の人材が無く、また、場合によっては美術界に波瀾を巻き起こす恐れも多分にあつたので、各方面から異論の出ない人物が選ばれるまで、正木と意思の疏通のある赤間が暫定的に後任をつとめることになつたのである。

正木校長時代を象徴する『東京美術学校校友会月報』の最終巻(第三十一巻第一号)の巻頭を飾るのは正木と赤間の挨拶の辞である。

正木前學校長の職員一同に對する挨拶の辭

御挨拶申します。私は明治三十四年八月當校長を拜命致しましてから、今日に至りますまで約三十年以上になりましたが、其の間先づ大過なく過すことの出来ましたのは、全く先生方の其の職に善く御端し下された餘慶で、茲に厚く御禮申します。斯く長くなりましたのは、全く私は平凡に暮したからでありまして、又際立つたことが嫌であるのと、何でも事柄をなだらかに済みたいと云ふ性質から因循なことになつたのであります。それ故に何等の波瀾もなく長い間の御奉公を終ることが出来ました。其の間に色々な美術上のこと、學校の關係のことから、又校務の教育の他に、此の學校には澤山の卒業生があつて、學校の發展と卒業生との關係が非常に密接でありますから、學校長はそれ等の方々の爲めに其の發展に微力を致さなければなりません。平常は各種の協會であると、か展覽會等の仕事が澤山ありまして、學校の教育の方の側を不動にしたやうなこともあります。直接學校に關係のあるやうなないやうな事柄に對しても、成る可く學校を培養すると云ふやうな心持を常に持つて勤めてみました。それから學校の教授材料等に就きましては、甚だ私専斷で色々なことを致しました。小さい經濟の中でありますから幾分の心盡で置くこと云ふやうな次第でありましたが、然し是は私のやりましたことの中で自ら快いやうに感ずるものであります。長く長く學校に關係する人が是を御利用して下さることを希望して止みませぬ。次に學校では教課の方の効果を實地に現すために依頼の製作で色々なことをやつてみます。最近やりましたことでは帝國議會を漆で裝飾し金

工で扉を作ると云ふ仕事がありました。斯う申しましただけでは簡單のやうであります。其の仕事は實に大事業であつて、そして是は技術の先づ最高の程度を示したものであります。あの仕事は學校の先生方の指圖で卒業生がやりましたが、其の技術も徹底的にやりました故に、それよりして漆工のこと金工のこと等、學校の一般の程度を示すことが出来ました。大きな依頼の仕事であります爲めに、巧く行けば良いが拙く行つた時には困るので其の點勘からず心配してみました。ところが今度は成功して技術家として其の技術の報告の仕事を仕上げたのであります。是に關係せられた先生方の功績は大なるものであります。私は責任を感じてゐたのであります。それが三月で完結しましたので非常に愉快に思つてゐる次第であります。私自身は先達で帝國美術院長を拜命致しました際に、これからは美術のこと一般に關係することになつたのでありますから、美術學校長の職を汚してゐるのは幾分遠慮しなければならぬと思つてゐましたが、當時直ちに如何うと云ふことも難しかつたのであります。今日に至るまで 朝廷からの恩遇を辱けなうして餘りに長くなると云ふことゝ、それから色々な懸案も漸く片付いて何等の引懸りもないと云ふ時になつたので、丁度此の際に此の學校長を御免を蒙りそれで餘生を送るやうに致しました。幸にして近年非常に健康でありますから、もう年齢は、つと前に保存期限は切れてゐますが、まだ働けないことはない。この際に御免を蒙れば、豫てやつて見たいと思つてゐたことに着手することが出来る譯であります。帝國美術院のこともあります。餘生を達者に各地に旅行をして見たいと云ふやう

な心境で退職を願ひましたところが、昨日御免の恩命を蒙つたのであります。又文部省に於ても學校のことに就いて重大に御考へになり軽々しく後任の校長を御決定にならないで、私の退職を御決定になると同時に赤間専門學務局長が校長事務を取扱はれることになりました。茲に厚く長い間御奉公の出来ました御恩誼を謝し、併せて後の校長を御紹介申す次第であります。

赤間學校長事務取扱の同上挨拶の辭

只今正木先生から御紹介を蒙りました赤間であります。正木先生は昨日を以て御退官になりました。先生の御功績に就きましては、私から今更申し上げることは筋外れのことでありまして、皆様の方が良く御存じになつて居られるのであります。たゞ私の感じてゐることを申ますと、正木先生と言へば美術學校、美術學校と謂へば正木先生、それ程に正木先生と美術學校は不可分のものに考へられるのであります。長年此の學校におかれまして幾多の御功績を擧げてゐられるのであります。それを只今は御遠慮になつて大過なく過したと申されましたが、大過どころか大功を擧げられたのであります。美術學校の發達、美術其のものゝ發達、美術を教育化し學校化したところの其の御功績は、若し維新以後の美術のことを述べ、若し明治中年以後の美術史を敘するに際しては、正木先生が其の重要な位置を占めると云ふことは信じて疑ひませぬ。殊に當美術學校の歴史を編纂する時には、正木先生の記事は其の大部分を占めることでありませう。私は爰に一々其の御功績を擧げることとは止めまして、吾々國民として、文部省に

居る者として、大いに感謝し、正木先生にして始めて出來たことに對して、深く感銘の意を表したのであります。正木先生は昨日御退官になりましたが、今後帝國美術院長として廣く一般の美術に御關係になり、其の蘊蓄を傾けられて更に御功績を示されることゝ存じます。當校を御去りになつても従前の如く朝な夕な御援助を蒙ることが出来るのであります。更に正木先生には美術學校の鎮守として此のことを御願したいと、斯やうに私は思ふのであります。

次に私自身が本校の校長事務を取扱ふことになりましたので、茲に一寸御挨拶致します。皆様の中には不肖を御存じの方々が多敷居られることゝ存じます。これ迄私は仕事の上からは美術に關聯はなかつたとは言へないが、然し美術に對しては全くの素人でありませぬ。然るに美術其のものを重要な仕事として取扱ふことになりまして、私としては名譽なことで勿體ないと同時に又自ら恥しいと思ふのであります。たゞ仕事の上の關係で官命を受けた次第でありますから、皆様の御援助と前校長の御援助に依りまして、御預りしてゐる間は出来る限りのことを致したいと存じます。其の時間の長短は知らないのであります。然し百年千年のこととは一日の責務の上に關聯してゐるのであります。自ら當らざることとも長く承知しながら大切な學校の仕事に従ふことになりました。積極的に進めることは出来ないが、消極的に守つて是を傷つけないやうに、今後仕事を御預りしてゐる間は出来る限りのことをやる心算であります。甚だ簡單であります。是を以て事務を取扱ふことになりました門出の御挨拶に致します。

さて、ここで赤間が「當美術學校の歴史を編纂する時には、正木先生の記事は其の大部分を占めることでありませう。」と記しているように、本書第二巻以降はその大部分とは行かぬまでも正木に關する記事が必然的に数多く掲載されており、したがって、その功績を改めて記す必要もないが、彼に本校名誉教授の名称を授与（昭和七年六月六日）するために作成された上申書中にその「功績調書」があるので、ここに転載する。

功績調書

元東京美術學校長正三位勳一等 正木 直彦

奈良縣在職中功績

- 一、明治廿六年十月一日奈良縣尋常中學校長ニ任ゼラレ同年十二月一日同中學校教諭ニ兼任シ明治三十年六月ニ至ル 在職三年八ヶ月ナリ
- 一、同廿八年九月廿四日奈良縣尋常師範學校長事務取扱ヲ命ゼラレ廿九年二月二十二日免ゼラル
- 一、同廿八年二月廿三日奈良博物館學藝委員ヲ被仰付同三十年六月十四日之ヲ免ゼラル

文部省在官中功績

- 一、明治三十年六月三日文部大臣秘書官ニ任ゼラレ中學校ニ関スル臨時取調委員ヲ命ゼラル
- 一、同年十一月十六日文部省視學官ニ轉任シ東京府下公私立尋常中學校ノ巡視ヲ命ゼラレ又小學校教員功績調査委員ヲ命ゼラル
- 一、同卅一年七月八日文部大臣秘書官ヲ兼任シ大臣官房秘書課

長、高等教育會議幹事ヲ命ゼラレ同年十一月一日秘書課長ヲ免シ文書課長兼美術課長ヲ命ゼラル

一、同卅一年八月廿五日第一高等學校教授ニ兼任シ卅二年十一月六日之ヲ免ゼラル

一、同卅二年四月十一日欧米各國へ差遣ノ命ヲ受ケ同年十一月廿二日出発シ在外一年餘ヲ経テ三十四年三月廿六日帰朝ス 此外遊ハ主トシテ欧米各國ノ學事及美術ニ関スル調査ノ為ナリ 帰朝後同年八月迄文部省視學官トシテ在任ス 以上文部省在官四年餘ナリ

東京美術學校長在職中功績

一、同卅四年八月九日東京美術學校長ニ任ゼラレ爾來勤績スルト滿三十ヶ年餘ニ及ビ昭和七年三月三十一日依願退官シタリ 此ノ美術學校長在職三十年間ニ於テ特殊困難ナル美術教育ヲ完成スルニ努力シ一面美術上ノ趣味思想ヲ廣ク世間ニ鼓吹シ美術學校ヲシテ今日ノ隆運ニ至ラシメタル功績ハ最モ偉大ナリト謂フベキナリ

一、明治四十年七月ヨリ東京美術學校々館教室ノ新築並改築ニ着手シ大正三年三月ニ至リ約七年ヲ閱シテ之ヲ竣成シタリ 是現在ニ於ケル校ノ建物ニシテ其ノ功勞亦多大ナリ

一、明治四十年七月東京美術學校ニ圖画師範科ヲ増設シ又同年十一月彫刻科ヲ分チテ塑造、木彫、牙彫ノ三部ト為シ大正三年ニ圖案科ヲ第一部（工藝圖案）第二部（建築圖案）ニ分チ同年又新ニ製版科ヲ設置シ大正四年ニ寫真科ヲ設置シ大正十二年ニ圖案科第二部ヲ以テ建築科トシタル如キ皆正木校長ノ計企施行シ

タル所ニシテ著シキ功績ノ一部ヲ為セルモノトス

一、美術學校長在職ノ間夙ニ日本美術ヲ歐美各國ニ紹介シテ其眞價ヲ世界的ニ昂揚スルニ努力シタリ 明治卅七年米國ニ於ケル聖路易萬國博覽會、同四十三年英國ニ於ケル日英博覽會ノ如キ孰モ日本美術品出陳ノ關係ニヨリ親シク其地ニ差遣サレ盡瘁スル所アリ 又大正十一年佛國巴里ニ於ケル官設美術展覽會へ本邦美術品ヲ出陳セシ時、最近ニハ昭和四年佛國巴里ニ日本繪畫ノ展覽會ヲ開キタル時、昭和六年ニ獨逸ノ伯林范牙利ノ「プタペス」ニ於テ日本画ノ展覽會ヲ開キ又同年ノ秋北米合衆國ノ「トリド」市紐育市其他ノ各地ニ開キタル日本畫ノ展覽〔會〕ノ如キ孰モ皆其成立ニ関シテ重要ナル指導提唱者タリ

博覽會關係功績

一、明治卅四年十一月内閣ヨリ第五回内國勸業博覽會評議員ヲ被仰付 同卅六年一月同博覽會審査官ヲ被仰付第九部第十部出品ノ審査ヲ擔任ス

一、同卅六年七月臨時博覽會評議員ヲ被仰付同年九月同博覽會鑑査官ヲ被仰付

一、同卅七年八月米國聖路易萬國博覽會參同事務ノ為メ米國へ被差遣同年十一月十四日帰朝ス

一、同四十二年四月日英博覽會評議員ヲ被仰付 同年五月日英博覽會事務局ヨリ美術及歴史ニ関スル出品計畫委員長ヲ囑託サレ六月文部省ヨリ同省出品計畫審査委員ヲ囑託セラル 十一月日英博覽會鑑査官ヲ被仰付

一、同四十三年二月二日差遣ノ命ヲ受ケテ英國へ向ヒ出發 六月

日英博覽會事務局ヨリ美術部審査主任及教育部、心藝部、婦人部、染織工業部ノ審査兼任ヲ命セラル 同年十一月二十日帰朝ス

一、大正三年九月臨時博覽會鑑査官ヲ被仰付

美術審査委員會關係功績

一、明治四十年文部省ニ於テ美術審査委員會ノ制定アリテ毎年十月美術展覽會ヲ開催セラル、ニ依リ同年八月十三日同委員會主事ヲ命ゼラル 此ノ美術審査委員會ノ制度ノ創設ト延イテ展覽會ノ開催トハ實ニ正木校長ト當時ノ專門學務局長福原謙二郎ノ兩者首唱提案ニヨルモノニシテ其後大正八年九月ニ至ルマデ十二年間繼續シテ主事ノ職ニ在リ當初幾多ノ困難ヲ排除シ中間又多クノ波瀾ヲ凌ギ遂ニ文部省美術展覽會ノ盛名ヲ天下ニ馳セシメタルハ主事トシテ其功績ノ多大ヲ認メラルベキナリ

帝國美術院關係功績

一、大正八年九月八日帝國美術院幹事ヲ被仰付昭和六年一月廿五日迄繼續其職ニ在ルコト十二年餘ニシテ幹事ヲ免セラレ同日更ニ帝國美術院長ヲ被仰付現ニ在職中ナリ

一、帝國美術院モ毎年一回美術展覽會ヲ開設スル規定ニシテ其事務ノ總轄ハ主トシテ幹事ノ管掌ニ屬シ前記美術審査委員會ノ展覽會ニ比シテ時代ノ進運ニ隨ヒ規模益々大トナリ内容又複雑ヲ加ヘ幹事ノ職ハ前主事ノ時ニ比シ一層功績ノ偉大ナルヲ認ムベキモノト思料ス

工藝審査委員會關係功績

一、工藝審査委員會ハ農商務省ノ創設スル所ニシテ初メ圖案及應

用作品展覧會ト稱シ大正二年十月ニ其ノ第一回ヲ開キタルトキ
審査委員ヲ囑託サレ大正七年ニ工藝展覧會ト改稱シ大正八年ニ
又工藝審査會ト改稱サレ其委員ハ内閣ヨリ被仰付コト、為レ
リ而シテ大正二年以來昭和六年ニ至ルマデ毎年其審査員ヲ被
仰付是亦盡力スル所ノ功績多大ナリ

各種委員、評議員、顧問等関係事績

一、明治卅五年一月廿七日文部省ヨリ普通教育ニ於ケル圖書取調
委員長ヲ命セラル

一、同卅六年七月廿二日文部省ヨリ圖書教科書編纂委員長ヲ囑託
セラル

一、同四十年十月廿六日東京市長ヨリ東京市立日比谷圖書館評議
員ヲ囑託セラル

一、同四十三年五月廿七日内閣ヨリ議院建築準備委員會委員ヲ被
仰付

一、同四十四年五月十七日文部省ヨリ通俗教育調査委員會委員ヲ
被仰付

一、大正七年七月十八日内閣ヨリ臨時議院建築局顧問ヲ被仰付

一、同十三年十二月廿三日農商務省ヨリ萬國裝飾美術工藝博覽會
出品鑑査員ヲ囑託セラル

一、同十四年六月一日内閣ヨリ營繕管財局顧問ヲ被仰付

一、昭和二年九月十五日内務省ヨリ明治神宮外苑管理評議委員ヲ
囑託セラル

一、同三年十月十三日内閣ヨリ對支文化事業調査會委員ヲ被仰付

一、同四年四月十日宮内省ヨリ臨時正倉院寶庫調査委員會委員ヲ

命セラル

一、同五年七月三日内閣ヨリ國際觀光委員會委員ヲ被仰付

一、同六年十月一日内閣ヨリ國立公園委員會委員ヲ被仰付

官等及位勳〔省略〕

かくて正木校長時代は終り、東京美術学校は新たな時代を迎え
た。この変革期に際して幹事の職が復活し、四月十三日に矢代幸雄
がこれに任命されて赤間信義を補佐した。ただし、六月十一日の教
務分掌規定改正により幹事の職は解消された。

④ 後任校長問題

「諸新聞切抜」を見ると正木直彦校長退官前後の昭和七年三〜五
月に後任校長の人選をめぐる種々の動きがあったことが判る。校
内から選ぶ場合は和田英作が最も有力であるという記事（三月二十
五日『中央新聞』）、文部省が「直轄學校長中切つてのやり手」であ
る東京音楽學校校長乗杉嘉寿に白羽の矢を立て、極力交渉中であると
いう記事（同月二十七日『読売新聞』）、文部省宗教局長が候補に挙
げられたが本校内に反対運動が起こったため辞退したという記事
（四月一日『時事新報』）、校内から候補を挙げることに成り、和田
英作、津田信夫、結城素明が挙げられたが、和田が結城が推される
可能性が強いという記事（五月二十四日『国民新聞』）などが出て
いる。正木の『十三松堂日記』によってもその間の動きが推察され
るが、正木自身は和田英作を推す考えだったらしい。五月十九日の
日記には次のように記されている。